

留学帰国報告書

氏 名 : 小野達哉

留学期間 : 2015年8月~2016年8月

1 出発前の準備

私は将来欧米圏での国際貿易・商業に携わりたく思っており、その夢に向かって進むために今回の留学を決めたので、今回の留学における一番のテーマは、「現地の風を肌で感じながら学び、日本では得ることのできない本当の知を得ること」でした。ビジネススクールで集中的に一年間勉強に励むことは帰国後の大学生活、そして卒業後の人生において大きな武器になると思い、また、商学部の推薦という形で留学することで責任を負いながら自分を追い込み、意義ある一年間にできるという確信の元の留学でした。

私が大学在学中のフランス留学を目標に決めたのは、高校2年生の頃でした。高校在学時から独学で少しずつフランス語の勉強はしており、進学先の選定も留学制度・国際教育の充実具合を中心に行いました。そのため、入学後は SOCEC やフランス語プラスワンなど、語学の発展授業を積極的に受講しました。ただ、語学一辺倒にはならないよう、ビジネス教科はもちろん、西洋文化史等基本的な文化的知識や幅広い一般教養を身に着けることも意識して大学生活を送っていました。両親も私が二年次での留学を考えていることは早期から知っており、資金的な面も含め準備は比較的スムーズにいったと思います。

日本を発った段階での語学力は、英語は日常的なリスニングと読み書きは問題なく、スピーキングに少し不安がある程度、フランス語に関しては基礎的な文法知識と最低限の語彙のみ持った状態でした。語学検定でいうと、英語は TOEIC で 800 点程度、フランス語は仏検で 4 級レベルです。

留学が正式に決定したのは 3 月 16 日でした。出発までの一番の懸念は、なんといっても資金面でした。両親の援助があるとはいえ自力でできるところはすべて賄いたかったので、出発直前までほぼ毎日アルバイトをしていました。日中は大学、夜間はアルバイトという生活は決して楽ではなかったですが、精神的にタフにはなりましたし、何より留学中にお金がありすぎて困ることはないの、今振り返ってもいい判断だったと思っています。

ビザ・保険等については、出発 3 週間前に一気に終わらせました。早めに終わらせるに越したことはないですが、直前でも書類等きっちり準備しておけば何とかなるものです。

2 協定校での手続き

これはすべてにおいて言えることですが、これを拝読していらっしゃる皆さんが行こうとしているところでは、日本のように物事が当たり前には進みません。大袈裟かもしれませんが、いい加減がまかり通っている国です。何事にも心の余裕をもって取り組みましょう。たとえば、私が当初受け取った入学受け入れ書類には誤った留学期間が記載されていました。この書類はビザ申請にも用いる重要なものなのですが、訂正版を受けとるまでに大学と連絡が取れなくなったり、結果 3 週間近くかかったりと大変な目にあいました。他にも、受講科目の申し込み手続きや滞在先選定に関するメールが私にだけ届かず、突然期限切れのメールが送りつけられたりもしました。事実、私のレンヌでの滞在先は出発 3 日前まで未定でした。こんなトラブルが

発生しても、**C'est pas ma faute!** (私のせいじゃない!) と主張するような国です。どんなことが起きても、笑い飛ばす寛容さが大事だと思います。開校後一週間で行われる諸手続き等については、他の方の報告書を参照してください。

3 宿舎と日常生活

宿泊先については、ESC のスタッフが選定を補助してくれます。具体的な選択肢は、①ステュディオでのルームシェア ②ホームステイ ③一人暮らし ④学生寮の4つです。最も人気があるのは、生徒間でのルームシェアでした。同じ屋根の下で生活すれば嫌でも親密になるものだと思いますし、友達を作る手取り早い選択肢だと思います。また、ホームパーティを自宅で開くことができるのも大きなメリットだと思います。ルームシェアを希望すれば、ESC のスタッフが「ロケーションとルームメイトの候補を提示してくれます。人気が高いということは早い段階で予約が埋まるということなので、希望する場合はすぐに ESC と連絡を取りましょう。ちなみに、フランス人生徒とルームシェアしたい場合は、Facebook のグループ等を使って自力で探し出す必要があります。ESC がマッチングしてくれるのはあくまで同じタイミングで ESC での就学を始める生徒間のみ、即ち大部分が留学生だからです。

私が実際に選んだのは、ホームステイでした。理由はありきたりですが、フランス人家族と生活することでリアルな文化や習慣を知ることが出来ると考えたからです。また、何より勉学を第一優先にしたかったので、ルームシェアを選んでルームメイトが騒がしいケースを恐れていたというの也有ります。私がステイさせていただいたのは小さい子供が2人いる4人家族でした。ホームステイとはいっても、食事は自炊でしたし、家族が使うのは主に家の1階と2階、留学生は3階で生活するといった形だったので、一般的なホームステイとは少し違うものだったと思います。キッチン、トイレ、シャワーも3階に備えてあったので、1日で家族と接触するのが朝と帰宅後のあいさつのみの日もざらにありました。それでも、季節のイベント時には一緒にディナーをとったり、何より日常的にフランス語を使う機会に恵まれているというのはホームステイの大きな利点だと思います。また、私のステイ先は少し特殊で、余っている部屋を airBnB で貸し出しており、日替わりでフランス人を中心とした旅行者と生活を共にしていました。相性はもちろんありますが、中には仲良くなって飲みに出かけることもありましたが、なかなかいい経験だったと思います。就学生活の終盤では、深夜まで勉強したい私と早く寝てほしい家族との間で無益な軋轢が生じ、口喧嘩になったこともあります。フランス語で喧嘩することなんてそうそうないと思うので、それはそれでよかったということにします。ちなみに、フランス人はサバサバした性格の人が多く、トラブルが起きても翌日にはけろりとしていることが多いです。何か言いたいことがあったらとりあえずぶつけてみるのも一つの手です。

一人暮らしに関しては、ごく一部の生徒のみしか選んでいませんでした。その多くが極端な引込み思案であるか、もしくは中国・韓国から来た富豪の息子です。せっきくの留学なので、だれか他人と生活してみるのが良いのではと個人的には思います。ただ、一人暮らしの生徒の家ではパーティーを開けるので、一人暮らしの生徒の友達を持っておくと得するかもしれません。

学生寮も人気の選択肢の一つですが、多くの生徒が割り当てられる寮 (INSA) は ESC からバスで40分以上かかる場所にあります。周りにも何もないところなので、あまりお勧めはしません。あえて利点を挙げるなら、個室という完全なプライベート空間がありながら廊下を隔てて何十人もの生徒と生活を共にするので友達の輪が広がりやすい、また、寮主催のパーティーやイベントが定期的であり、自宅でお祭り気分を味わえることなどだと思います。

日常生活といってもすべてを言及することはできませんので、私は休みの日のレンヌでの過

ごし方について記したいと思います。レンヌはブルターニュ地方の州都ですが、基本的には学生街だと思っていただいても間違いはないと思います。勉学に集中するには最高の街だと思いますが、その分娯楽が豊富にあるとは言えません。休みの日にすることはといえば専ら買い物か映画を観るくらいのもので、一日中外出するということは旅行でもしない限り無いのではないかと思います。買い物に関しては、食料品や日用品は主に町の郊外に位置する **Leclerc** や **Carrefour** のようなハイパーマーケットで調達していました。また、**ALMA** や **Grand Cartier** のようなショッピングモールも充実しています。衣類に関しては、自分はあまり買わなかったのですが、友達の多くはパリに出かけた際に買っていたようです。留学中に日本食が恋しくなることもあるとは思いますが、**ESC** の近くにある **Belasie** というアジア食料品店に行けば、基本的な日本の食材・調味料は手に入るので安心してください。物価指数の高いフランスで節約して生きていくには自炊が基本ですので、渡航後はすぐにこれらのお店を訪れてみることをお勧めします。一例として挙げた映画ですが、フランスでは映画料金は一本当たりおよそ 6~10 ユーロ程度と安いです。フランス人は週末に映画を友達と観て感想を語り合うのが好きなようです。是非まねしてみてください。何より英語・フランス語の勉強になるのでお勧めです。また、サッカーに興味のある方はレンヌを本拠地とするリーグ・アンの **Stade Rennais** の試合を見に行くことをお勧めします。数年前に建て替えられたばかりの素晴らしいスタジアムで観る試合は毎戦最高の雰囲気です。ブルターニュ名物のガレットを頬張りながら赤と黒のタオルマフラーと共にスタジアムに入れば、あなたも立派な **Breton** です！

4 学校生活

私は 2 年次の前期を終えた段階での留学だったので、まだ自分の専門についての十分な知識があるとは言えない段階で履修科目を決める必要がありました。今思えば、「2 年生なので」なんて甘い気持ちを捨てて、独学で少しでも知識を身に付けてから渡航すればよかったなと思っています。どのクラスにも初修者はある程度いるので、授業自体もゼロからの生徒を意識した構成になっていましたが、プレゼンやディスカッション等アウトプットが中心の授業構成なので、予習と復習は毎日必ず取り組んでいました。テキストはすべてオンラインで閲覧可能なので、留学開始後に購入する必要はありません。紙のテキストも多くは図書館に所蔵されていました。授業で講師が用いたスライドも、ほとんどの講師はセッション終了後にポータルサイト上でシェアしてくれるので、復習も授業終了直後から可能でした。各自アポイントを取れば、もちろん講師に直接質問をすることもできます。

授業は基本的に 90 分 1 コマ×2 を週に一回、全 11 回の構成です。午前の授業は 8 時 20 分始業、午後の授業は 12 時 20 分開始、16 時 30 分に終了です。多くの授業では全 11 回のうち最終回がグループごとに行われる最終プレゼンの発表に充てられており、これが評定のおよそ 3 割から 4 割を占めます。プレゼンは多くの場合講師がフォーマットを提示してくれるので恐れるに足りません。プレゼンに気を取られすぎていると、終了後にすぐ期末考査がやってくるので、前半から計画的に自習しておきましょう。

私は、前期は **European Geopolitics**, **CSR**, **Advertising**, **Strategic Human Resource Management**, **Project Management**, **Entrepreneurship and Small Business Management** のビジネス科目 6 つと **French Language**, **French Culture** のフランス語教科 2 科、後期は **Purchasing and Logistics**, **Operation Management**, **New Product and Brand Management**, **Service Marketing Management**, **Doing Business in France** のビジネス 5 科と **French Language**, **French Culture** のフランス語教科 2 科を **ESC** で履修していました。また、後期はフランス語のさらなる上達のために、校外の **Université 2** にて **CIREFE** というフランス語

講座を週 2 コマ受講していました。

5 留学終了後

私の ESC での留学は、5 月上旬に最後のレポートを提出して終了しました。レポート提出の翌朝にはレンヌを発ち、パリに引っ越しをしました。パリでは 3 か月間のインターンシップを行いました。ESC の友達の中でも、何人かフランスに残ってインターンシップを行う学生はいましたし、フランス人学生にとっては当たり前の選択肢なので、興味がある方は ESC のスタッフに相談してみるといいと思います。

帰国に向けた手続きといっても、私が具体的にしたことは飛行機の手配くらいです。CAF で家賃補助を受けている人は、停止申請をする必要があります。銀行の口座も人によっては閉じるのですが、私は近々戻ってくる予定なので残すことにしました。携帯の SIM カードも月払いなので、支払いを止めれば無効になるだけなので特に手続きは不要です。帰国後の提出書類に関しては、なるべく早めに取り掛かることを強くお勧めします。かなり分量が多く手間のかかるものが多いので、注意してください。

6 商学部生へのメッセージ

まず、これを目にしている皆さんは当然留学を真剣に視野に入れている方だと思いますが、そんな皆さんが留学を通じて達成したいことは本当に留学を通じてしかできないのか、より手近な方法論は存在しないのか、もう一度考えてみてください。皆さんが留学生活を送ることで具体的にどう成長していきたいのか、その多くは日本でも努力すれば簡単になえられることであるケースが少なからずあります。例えば語学力ですが、フランスに行くことだけではフランス語は喋れるようにはなりません。当たり前聞こえることとは思いますが、英語で講義を受けても英語が自然に上達するわけではありません。まずは最低限の文法知識や語彙などの素地を作り、基礎が固まった人が海外生活を通じてアウトプットを繰り返して語学力を伸ばしていくのです。もっと根本からいえば、スピーキングなんて語学力の一側面でしかなく、中学生レベルの英語しか話せなくても外国語を使って海外の第一線で働いている方もたくさんいらっしゃいます。なんとなく時代の風潮で外国語の習得が不可欠のように聞こえますが、今の皆さんに本当に留学してまで語学力を伸ばす必要があるのか、いざ留学が始まる前に一考してみてもよいのではないかと思います。他によく何う感想では「精神的に成長した」というものもありますが、異国とはいえ日本語から完全に切り離されたわけでもなく、周りに日本人が少しはいるような環境であれば日本でも作ることは可能です。精神面での成長が目標なら学部間協定留学ではある必要はありませんし、大学を休学して何か一つのことに打ち込んでみるだけでも大きく成長できるのではと思います。

ただの一学生である私が偉そうにこんなことを言っているのは、皆さんが申し込もうとしている、もしくは申し込んだプログラムは、明治大学商学部の学部間協定プランだということを理解していただきたいからです。皆さんは、明治大学商学部、ひいては日本人の代表として渡航することになります。成績が芳しくなければ、来年以降の受け入れにマイナスになるかもしれません。授業中に隅で何もせずうつむいていれば、「日本人はこんな人たちなんだな」と思われるかもしれません。私は、認定留学や語学留学ではなく、学部間協定としての意味合いを理解し、当初の目的を遂行できる人にとって、この報告書が有益であればと思っています。留学というのは主に資金面で大きなリソースを必要としますが、その分始まってしまえばとても簡単で楽な道です。明治大学に残って、留学している人たちと同じくらい自分を追い込むのは並大抵なことではありません。その分日本で頑張った人のほうが得られる対価は大きいでしょう

し、皆さんの中には日本に残る道を選んだほうが賢明な方もいらっしゃるのではないかと思います。ぜひ、自分がなりたい自分になるために今回の留学は必要なのか、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

いざ渡航し、たくさんの友達を作り、楽しい留學生活を送ることは当然素晴らしいことです。ただ、周りを見渡すと、遊びほうけて授業に休みがちになる生徒、酒やたばこを覚えて浮かれている生徒、「フランスにいる」という充実感だけで何かを成し遂げた気になっている生徒がいたのも事実です。これはあくまで私の意見ですが、商学部の代表として派遣されている以上、そして両親の協力の上で留學している以上、楽しさより自分を追い込んで成果を上げることが優先するのは当たり前だと思っていました。放課後も休日も部屋で勉強漬けになる日が多かったですし、フレンドリーな性格でもない私ですが、それでも今振り返ってみれば素晴らしい友達に恵まれました。本気で頑張っている人の周りには、本気で頑張っている人、本気で何かを成し遂げようとしている人が集まってきます。ある程度でごまかしてしまう人の周りにはそこまでの人間しか集まりません。人間は弱いものですから、当初の意気込みを忘れたところに誘惑が舞い込んできて、本来の自分を見失ってしまうものです。たった一年や半年の留學生活なのですから、是非自分を限界まで追い込んでみる時間にしてみてはどうでしょうか。